

令和 7 年度第 1 回鹿児島県立図書館協議会資料

令和 6 年度

鹿児島県立奄美図書館運営に関する

点検及び評価結果

鹿児島県立奄美図書館 P 1 ～ 9

令和 6 年度

鹿児島県立奄美図書館運営に関する点検及び評価結果

鹿児島県立奄美図書館運営基本的運営方針

(令和 2 年 3 月策定, 取組期間: 令和 3 年度～ 6 年度)

【鹿児島県立奄美図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し, 成長し続ける図書館 ～支える・役立つ・つなぐ・育む～

【基本目標, 重点取組事項】

＜基本目標1＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県内の公共図書館(室)が多様なサービスを提供できるよう, ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより, 県民の読書活動を「支える」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 市町村図書館支援の充実
- 2 ネットワークの構築
- 3 図書館運営研究の拠点
- 4 図書館協議会等の充実

＜基本目標2＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県の情報拠点として, 県民や地域の課題解決支援が図れるよう, 多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより, 県民に「役立つ」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 利用者に対応したサービスの充実
- 2 課題解決支援・学習支援の充実
- 3 郷土資料(地域資料)の網羅的な収集とデジタル化
- 4 図書館資料の計画的な整備

＜基本目標3＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県民が新たな知を創出できるよう, 居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら, 知識や知恵, 情報の交流の場づくりに努めることにより, 人と人, 人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 場と人とをつなぐ環境づくり
- 2 人と人とをつなぐ環境づくり
- 3 情報と人とをつなぐ環境づくり

＜基本目標4＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県民の読書活動を積極的に推進するとともに, 郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより, 県民が生涯にわたって読書に親しみ, 郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 子供読書活動の推進
- 2 大人読書活動の推進
- 3 郷土の人・文化の理解と継承

[評価基準]

評 価	内 容
A	非常に良好 : 目標を大きく上回った。
B	良好 : 目標を達成した。
C	やや不十分 : 一部が目標に達しなかった。
D	不十分 : 目標を大きく下回った。

鹿児島県立奄美図書館

基本目標Ⅰ「支える図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより、「支える」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度の実施状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	市町村図書館支援の充実	・情報の共有化を行うとともに、連携を密にし、利用者サービスの向上を図る。 ・貸出文庫により、市町村立図書館をとおして県民への圖書の貸出を行う。 ・図書館ポータルサイトを活用し、相互貸借の充実を図る。	・図書館協会奄美支部の主催事業や図書館講座等の場を活用して連携を図った。 ・管内の小中学校を訪問し広報活動を行いながら、利用の推奨に努めた。 ・大島地区限定のポータルサイトの運用を開始し、より利用しやすい環境を整備した。	B
2	ネットワークの構築	・市町村立図書館（室）における、利用者サービスの向上を促進する。 ・図書館情報システムの適切な運用管理を行うとともに、セキュリティ対策の強化を行う。また、図書館情報システムを活用したサービスの利用促進を図るため、横断検索システムへの参加・利用促進を図るとともに、ホームページの情報更新に努める。	・居住地返却の方法や基準等について、改めて各図書館（室）に周知を図り、令和6年度は計画当初の目標値を大きく上回るなど、ネットワークを通じたサービスがリピーターを中心に浸透している。 ・横断検索システムに参加の自治体数は39市町であり、昨年度と比べて1増（南種子町）となった。	A
3	図書館運営研究の拠点	・図書館講座等とおして、図書館職員の資質向上を図る。 ・公立図書館（室）、学校図書館を訪問し、指導助言を行うとともに、来館研修や図書館司書実習を受け入れるなど、市町村や各種団体等の支援を行う。	・令和6年度は天城町で実施し、参加者数は目標に達しなかったが、大型絵本やアニメーションを用いた読み聞かせの講座内容は、参加者から好評を得た。 ・大島地区内の市町村からの要請を受け、研修へ職員を派遣するなど、市町村等を支援した。	B
4	図書館協議会等の充実	・大島地区内の公立図書館（室）職員からの意見・要望を参考にし、図書館運営や利用者サービスの改善・向上を図るため、図書館協会奄美支部総会及び大島地区図書館連絡会議を開催する。	・図書館協会奄美支部総会及び大島地区図書館連絡会議を5月30日に奄美図書館で実施し、各図書館（室）と連絡を密にするよう心がけた。	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	県民一人当たりの貸出冊数	3.55 冊	3.15 冊	88.7%
2	市町村満足度	80.0%	83.0%	103.8%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	図書館等への貸出冊数	1,240 冊	623 冊	50.2%
2	居住地返却の冊数	40 冊	325 冊	812.5%
3	横断検索への接続市町村数	41 市町村	39 市町村	95.1%
4	講座等への参加者数	50 人	12 人	24.0%
5	「大島地区図書館連絡会議」の参加者数	30 人	22 人	73.3%

3 評価と今後の取組について

県民一人当たりの貸出冊数は、令和3年度以降、緩やかな回復傾向であったが、令和6年度はやや下降した。

貸出文庫・相互貸借・居住地返却等に関する利用者アンケートでは、83.0%が「満足・やや満足」と回答しており好意的な評価を受けた。特に、居住地返却については前年度に引き続き、目標値を大幅に超えておりネットワークを通じたサービスが浸透していることがうかがえる。

図書館講座の参加者については、目標値を下回っているものの、大型絵本等を用いた読み聞かせをテーマとした講座内容は好評であった。公共図書館職員の資質向上の良い機会となるよう、今後も開催市町村のニーズを把握しながら内容の見直しに取り組んでいきたい。

大島地区の図書館活動等の振興策を協議する場として「大島地区図書館連絡会議」を毎年開催している。意見交換等を通じて連携協力を確認するとともに、地区内の市町村立図書館（室）の意見や課題に対して、支援できるよう努めていきたい。

今後も、研修や訪問により図書館職員の資質向上に努めるとともに、横断検索システムへの参加・利用促進を図りながら、市町村立図書館（室）を支援してまいりたい。

基本目標Ⅱ「役立つ図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより、「役立つ」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	利用者に対応したサービスの充実	・閲覧や貸出など利用しやすい環境整備とともに、様々な利用者サービスの向上に努める。	・館内案内のユニバーサルデザイン化を図り、バリアフリーに配慮した表示への変更を行った。また、令和7年度から照明のLED化を実施し、安定した照度を確保することとしている。	A
2	課題解決支援・学習支援の充実	・郷土に関する事項の件名やレファレンス事例の電算入力、パスファインダーの作成等、レファレンスツールの充実に努める。 ・課題解決支援コーナーの充実を図る。	・レファレンス件数は、令和5年度より年間21件増加し、目標達成率は86.2%であった。奄美群島に関連した問い合わせも多く、県民や地域の課題解決支援への役割を果たしているものと考ええる。 ・課題解決支援コーナー4分野の資料収集、配架の工夫を行い、充実を図った。また、台風等の自然災害が多い地域性から新たに防災コーナーを設置した。	B
3	郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化	・郷土の文化遺産として後世に伝えていくために、網羅的で積極的な郷土資料の収集を行い、そのために各関係機関との連携を図り協力を依頼する。 ・郷土資料の保存と活用のため郷土新聞や貴重資料等のデジタル化を進める。	・図書以外の県行政資料や市町村発行資料等の収集及び、世界自然遺産の保全と活用に関する郷土資料の収集に積極的に努めた。 ・郷土新聞のマイクロフィルム化については、過去の受入も落ち着き、目標値を達成するなど順調に進んでいる。令和7年度からはデジタル化を実施する予定である。	B
4	図書館資料の計画的な整備	・利用者の生涯学習に役立つ資料を幅広く収集するとともに、雑誌スポンサーコーナーや障害者サービス資料の充実も図りながら、県民の調査相談に資する図書館、保存図書館としての資料の整備に努める。	・収容スペースの確保を図りながら、計画的に約5千冊を受け入れた。雑誌については、スポンサー制度により、13団体から18誌の提供を受けた。また、障害者サービスについては、オンライン研修の受講や館内研修を実施するなど、定着を図っているところである。	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	貸出＋書庫閲覧冊数	130,700 冊	84,683 冊	64.8%
2	利用者満足度	57.0%	59.0%	103.5%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度	57.0%	59.0%	103.5%
2	レファレンス検索データ入力件数	210 件	181 件	86.2%
3	郷土新聞のマイクロフィルム化	1,302 本	1,302 本	100.0%
4	蔵書冊数	258,780 冊	257,723 冊	99.6%

3 評価と今後の取組について

貸出冊数については、目標値に対して 64.8%の達成率であり、前年度に引き続き目標値に達成しなかった。全国の県立図書館も貸出冊数が減少傾向にある中、生涯学習の拠点として、図書館資料の充実及び提供を行い、読書活動を推進し、多様な学習機会の提供を更に充実させつつ、今後も来館者の動向を注視していきたい。

貸出期間や冊数、予約、調査相談等の 11 項目に関する利用者満足度は、目標値を達成した。ただ、認知度の低いサービスもあることから、事業やサービスの広報等に引き続き取り組む必要がある。

大活字本等のアクセシブルな書籍については、読書バリアフリー法や県読書バリアフリー計画を踏まえ、計画的に取り組むこととしたい。

レファレンス件数については、奄美群島に関連した相談も多く、順調に伸びている。引き続き、調査研究に役立つ図書資料の収集に努め、レファレンス結果を集積することで、更なる課題解決支援サービスの充実につなげたい。

今後も郷土資料の収集や、郷土新聞のデジタル化を進め、購入・寄贈の計画的な受入を行い、図書資料の充実を図りながら、課題解決に貢献してまいりたい。

基本目標Ⅲ「つなぐ図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県民が新たな知を創出できるよう、居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら、知識や知恵、情報の交流の場づくりに努めることにより、人と人、人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度の取組状況

	重 点 施 策	取 組 状 況		評 価
		計 画	実 績	
1	場と人をつなぐ環境づくり	・居心地の良い空間・居場所づくりの充実が図られるよう、施設等の安全管理及び保全改修に努める。 ・広報誌やホームページの内容の充実を図り、積極的な情報発信に努めるとともに、県の広報誌等を活用した広報活動を行う。	・老朽化していた空調設備の全面改修を実施し、利用者が安全に過ごせる空間・居場所を整備した。 ・ホームページの内容の整理及び充実を図るとともに、公式Instagram・フェイスブックの投稿数の増加に努めた。広報誌等を利用した広報活動や、地元 FM ラジオ局の番組に出演するなど情報発信に努めた。	A
2	人と人をつなぐ環境づくり	・利用者が多様な他者と交流し、図書館や図書資料を活用してコミュニケーションを楽しむことができるよう、交流イベントを開催する。 ・県民に館内3か所の研修室を有償（減免規定あり）で貸出を行う。	・交流イベント（クリスマスおはなし会）の参加者数は90人と目標とした200人には達しなかった。また、4月23日に開館15周年を迎えたため、年間を通して様々なキャンペーンを実施し、今後の利用者増に向けた気運の醸成を図った。 ・研修室の利用案内をホームページに掲載するなどして、研修室の稼働率が令和5年度の51.0%から87.8%へ約37%上昇した。	B
3	情報と人をつなぐ環境づくり	・図書館を生涯学習の活動や成果を発表する場として活用するため、ボランティア活動を支援する。 ・ホームページやSNSを活用した情報提供や情報交流を提供する。	・当館が実施するボランティア養成講座を受講した方のうち、高校生から一般まで計183人がボランティアに登録し、延べ159人が活動に取り組んだ。 ・Instagram等へ積極的に最新情報を掲載し、フォロワー数は目標値を上回った。	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	入館者数	136,000 人	89,480 人	65.8%
2	利用者満足度	72.0%	96.8%	136.3%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度	72.0%	96.8%	136.3%
2	交流イベント参加者数	200 人	90 人	45.0%
3	ボランティア活動者数	260 人	159 人	61.2%
4	HPのリンク数	13 件	8 件	61.5%
5	SNSフォロワー数	600 件	631 件	105.2%

3 評価と今後の取組について

入館者数は目標値の 65.8%であり、昨年度よりも約千人減少した。その要因については、コロナ禍を経た生活スタイルの変化等、様々に考えられるが令和 7 年度も動向を注視していきたい。

利用者満足度は、96.8%と目標値を超えており、今後も魅力的な空間の創出に努めていく。

ボランティア活動者数については、159 人と目標値を下回っているが、要因は若者の自立支援サポートセンターからのボランティア利用が激減していることによるものであり、当館においてボランティア養成講座を実施している成果は着実に現れている。

Instagram 等のフォロワー数も堅調に増加しており、SNS による情報発信が利用者に根付きつつあると感じている。

今後も、当館の魅力を十分に発信できるよう、交流イベント内容等の検討を行うとともに、来館者が利用しやすい環境の充実に努めたい。また、広く SNS や地元広報誌・FM ラジオ局等を活用した広報を行い、地域の人と人、人と情報を結ぶ役割を果たしてまいりたい。

基本目標Ⅳ「育む図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度の取組状況

	重 点 施 策	取 組 状 況		評 価
		計 画	実 績	
1	子供読書活動の推進	・読書指導者等研修会等を開催し、学校や家庭、地域における読書活動の輪を広げる。併せて、各種講座や講師派遣の中で、子供読書推進についての周知を図る。	・知名町で開催した読書指導者等研修会への参加人数は、目標値に対して5割程度の達成であったが、実践発表や地元在住のエッセイストの講演など内容の充実を図った。また、各研修会等における講義や指導助言の際に、子供の読書活動の重要性と意義、具体的な進め方について周知を図った。	B
2	大人読書活動の推進	・65歳以上を対象にした音読教室を開催することで、図書館が仲間作りの場として、より積極的に活用されるきっかけとする。	・大人が読書活動を楽しむ機会の提供を目的とした各種イベントを当初の予定通り実施することができ、参加者からも好評を得た。また、新たな試みとして全6回中5・6回目を龍郷町へ出向いて実施することにより、参加の促進を図った。	A
3	郷土の人・文化の理解と継承	・島尾敏雄記念室企画展、講演会、郷土コーナー企画展や「あまみならでは学舎」を開催し、県民の生涯学習の一助とするとともに、図書館利用の促進につなげる。また、広報活動として広報誌やホームページの充実を図り、報道機関への情報提供を行う。	・郷土コーナー企画展では、奄美の民俗学を研究した大和村出身の長田須磨関連の展示を実施した。また、生涯学習講座「あまみならでは学舎」においては、自然・経済・産業等の多分野から講師を招き生涯学習の場の提供に努めた。	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	研修会等の参加者数	600 人	514 人	85.6%
2	受講者満足度	98.0%	98.6%	100.6%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	講座等参加者数 (定員に対する参加者数の割合)	110 人	54 人	49.1%
2	大人向けイベントの参加者数	6 回	6 回	100.0%
3	講演会や企画展の参加者数	490 人	404 人	82.4%

3 評価と今後の取組について

「読書指導者等研修会」の参加者は、目標値に届かなかったものの、開催市町村特有の内容となっており、充実が図られている。

「音読教室（心も体もイキイキ！音読教室）」については、初の試みとして一部の回を龍郷町に出向いて実施した。初めて当該事業を認知する利用者もあり、新たな広報の手段として今後検討していきたい。

「あまみならでは学舎」については、予定されていた7回全て実施でき、毎年受講者の関心も高く、満足度も非常に高い数値となっている。また、昨年度に引き続き最終回である第7回をオンラインで瀬戸内町へ配信し好評を得た。当館まで来なくても近隣の自治体で生涯学習講座が受講できるよう、受講者のニーズ等も踏まえ、引き続き検討を進めたい。

今後も、研修会等の実施方法を工夫し、大島地区民の読書活動の推進を図りながら、生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心の育成に貢献してまいりたい。